

鶏卵ケージフリー義務化の売場から 何が見えるか 《後編》

—卵市場の進化とベターチキンコミットメントの停滞?—

麻布大学 動物応用科学科 動物資源経済学研究室 教授 大木茂

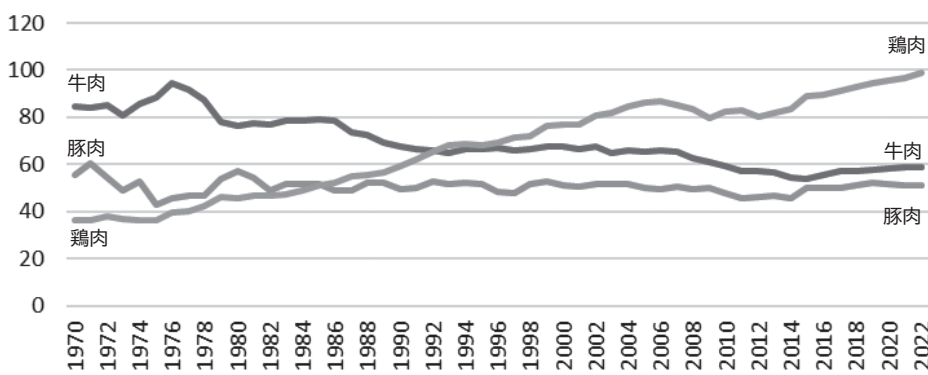


図1 米国の1人当たりの食肉消費量の推移

1. 鶏肉商品への着目

スロウグロウスの浸透は未知数だが総合的AWの取り組みは進んでいる

米国でも鶏肉は牛肉、豚肉と比較

表1 ベターチキンコミットメント (BCC) の基準 (米国バージョン2)

項目	基準内容
飼育密度	29.3kg / m ² (6 ポンド / sq.ft)以下、ケージ禁止
床の状態	少なくとも3インチの砕けやすい敷料が床全体を覆い、固まったり濡れたりしないように乾燥した状態に管理
照明	毎日最低連続8時間の明るさ(50ルクス以上)と連続6時間以上の暗さ(1ルクス未満)の提供
エンリッチメント	いつでも使用できる1種類以上の機能的なエンリッチメントが必要など
と鳥	気絶前の処理を避け、不可逆的な気絶を誘発する、多段階に制御された空気コントロールスタンピングを利用(CAS)
品種	より高い福祉結果をもたらす品種(リストあり)、またはRSPCA英国動物虐待防止協会プロイラー基準か、グローバルアニマルパートナーシップ(G.A.P.)基準を満たす品種の使用
監査	第三者機関による監査とコミットメントの進捗状況の毎年の公開

※1 BCCのHPより。EUや英国では、照明に自然光が必須とされるなど若干異なっている

※2 バージョン1は概ねG.A.P.認証システム内容

※3 飼育日数制限は、BCC、G.A.P.いずれも基準はない

して1人当たり消費量が大きく伸びており、生産への関心も高まっています(図1)。チキン生産をめぐるアニマルウェルフェア(AW)運動は、2016年にベター・チキン・プロジェクト(BCP)が、2019年にはベター・チキン・コミット

メント(BCC)が動き出し、表1のように成長速度や密度の規制などを求め、北米で234社(2023年11月時点)が賛同して、早ければ2024~2026年までに実現させようとしています。しかし、LA地域での宣言をする小売企業は限られていきます(表2)。そこで売場からBCCやBCPはどう見えるか、最近の米国鶏肉レポートも踏まえ、そこで触れられていないBCP認証を含む動向を中心に紹介します。

2. 価格と品揃え

(1) 小売の品揃えと価格

鶏肉は「慣行飼育」肉、「抗菌性物質不使用・植物性飼料(NAE+VF)」肉、「有機」肉という品揃えが一般的です。

2023年11月~2024年2月の17週間の平均で、骨なし皮なしムネ肉1ポンド(453g)当たりのレギュラーパックが2.94ドルに対して、NAE+VF肉が5.00ドル、有機鶏肉が7.54ドルとなっています。

表2 ベターチキンコミットメント (BCC) の取り組み状況

小売企業	ランク	コミットメント対象	到達状況 (2023.6.16 までのレポート)	課題
スプラウツ ファーマーズマーケット	A	限定なし。2024～2026年 までに100%	飼養密度・CAS: 66% 照明・敷料・エンリッチメント: 24%	高福祉品種への移行ロード マップがない
ホールフーズマーケット	A-	生鮮肉、店内の調理食品	対象: 限定なし G.A.P.の認証: 100% CAS: 82% 高福祉品種の更新: 2022年10月	ロードマップが不明
アルバートソンズ	D	有機PBの生鮮鶏肉の50 %以上を2024年までに G.A.P.-3基準で認証する	G.A.P.認証: 85% CAS: 85%	ロードマップが不明
クローガー	D	2024年までにPB (Simple Truth) の生鮮肉の50% で、BCCの基準 (密度、照 明、敷料、エンリッチメン ト、CAS) を満たす	密度: 17.5% CAS: 10.4% 調達した48%で敷料、照明、エンリッ チメントの基準を満たす	高福祉品種への移行は除外 されている。敷料、照明、エン リッチメントの基準などが 不明

出典: Mercy for Animals, 2023 Count Your Chicken report, 2023.7.25

※1 ランクはMercy for Animalsによる

※2 課題はMercy for Animalsによるコメントを参考

※3 BCCの取り組みをチェックするサイトとしては「chickenwatch.org」がある

表3 鶏肉 (ムネ肉、骨なし皮なし、1ポンド=454g当たり) 種類別価格 (ドル)

スペース	有機	NAE	VF	Non-GMO	AW 認証など	ブランド	小売 A	小売 B	小売 C	小売 D
慣行 (ケージフリー)						PBなど	2.67	3.99	3.99	1.99
慣行 (ケージフリー)		○	○			PB	6.23	6.99	7.99**	
フリーレンジ		○	○		○				8.99	7.99*
フリーレンジ	有機	○	○	○	○		8.48*	10.99	9.99	
フリーレンジ	有機	○	○	○		PB		8.99	9.99	

※1 筆者調査 (2023年12月末～2024年1月初頭)、LA地域

※2 有機では遺伝子組み換え飼料は禁止

※3 *AW認証なし、**AW認証あり

なお、2023年11月策定の連邦法に基づく有機飼育の飼養スペースは1羽当たり屋内1858cm²、屋外1858cm²ですが、2028年いっぱい準備期間とされています。これをもとに、一般的な小売に限定して商品展開を調査したのが表3です。実店舗で目視できた商品種類と価格を、BCC宣言企業とそうでない企業を並べました。宣言企業は小売Bと小売Cです。

各企業ごとの平均は最大手の小売Aで、通常ブロイラーが2・67ドル (100ととする) に対し、PBのNAE+VFが6・23ドル (233)、PBの有機が8・48ドル (318)。これに対し宣言企業の小売Cの価格比は、100・267・334、同じく宣言企業の小売Bの価格比は、100・175・225です。BCC宣言企業も、パッケージにその実践に基づく商品であるとの記載は見つけられませんでした (小売B、小売Cともに各6〜7店舗調査)。

2017年のデータ³ですが、米国小売店における鶏肉の部位別売れ筋ランキングによると、骨なし皮なしムネ肉レギュラーパックが、構成比2・79%で100g 74円 (100とする) に対して、骨なし皮なしムネ肉バリューパックが10・31%で55円 (74)、NAEの骨なし皮なしムネ肉が5・32%で121円 (164)、オーガニックの骨なし皮なしムネ肉が3・01%で179円 (242) とされており、価格比は現在と大きく変わらないようです。

(2) **JiDOR[®]** 商品

日本食料が豊富なスーパーマーケットでは「JiDOR[®]」を基本に品揃えする企業が少なくありません。ニジャマーケット、ミツワマーケットプレイス、トキヨーセントラルなどの日系スーパーです。また現地でもゲルソンズ (日本資本所有)、パビリオン (アルバートソンズ系)、超高級食材店でも取り扱わ

れており、フリーレンジ、N A E・V Fをうたい、骨なし皮なしムネ肉で、8・99〜14・99ドルで販売されています。ラベルの異なる地鶏もあるようですが、フリーレンジ、N A E・V Fというコンセプトでの販売ブランドとして「J i D O R I[®]」が位置付けているようでした。

(3) A Wの取り組み

日本の農林水産省のA W飼養管理指針には欧米で動き始めているB C Cやスロウグロウスという課題に触れていないものの取り組みはいくつか紹介されています。『鶏卵肉情報』2024新春特大号において、プロイラーひな生産大手の(株)イシイの竹内正博社長が、米国インディアナ州のAmish Country Poultryでは、面積当たりの羽数制限、A W付帯設備(太陽光窓、暗い場所、止まり木)で生産し、ある小売店舗で慣行飼育の骨なし皮なしムネ肉(ナシヨナルブランド、ファミリーパック)に比べて56%ほど価格が高く(2023年8月)、パッケージにはグローバル・アニマル・パートナーシップ(G. A. P.)の認証マークが付け

られていたと報告しています。

このマークについては、『畜産の情報』2024年1月号においても、a l i cの小林大祐調査員が、「動物福祉や人道的処理の観点は生産者や加工業者にも浸透しており、認証機関による認証やスコアリング(採点)が行われているほか、一部商品パッケージにはラベリングも行われている」と紹介しています。

G. A. P. 認証は総合的なA W認証であり、品種も定められています。さらに厳しいスロウグロウス品種選択を行うB C P認証を加えた新しいラベルが2023年1月からスタートしました(図2)。

竹内氏・小林氏の示した認証はG. A. P. チキン認証で、ランク1〜5+(1は数字表記なし、②〜⑤+で表示)まで分かれおり、数字の大きいほうが福祉度が高く、いずれも100項目以上のA W基準により評価しています。ランク1では、自然な行動を促進する豊かな環境、動き回るのに十分なスペース、日々の健康と環境の観察、屋内鶏舎での自然光アクセス、不断給餌・給水、健康

的な植物性飼料などがクリアされています。ランク2ではスペース・敷料・空気など環境の一層の向上などが、ランク3では屋外へのアクセスなどが求められ、ランクが上がるにつれて要求事項が強化されます。このG. A. P. 認証に加え、厳しいスロウグロウス品種の採用でB C P認証マークが付けられます。

2020年5月発行V e r . 3 . 2によると、G. A. P. 認証でも指定品種の採用が必要ですが、基準書の飼養可能品種のうち最も成長速度の速い品種は平均1日当たり68g(0・15ポンド)です。これは、B C Cが批判するファストグロウスの成長スピードと変わらないようにも見えます。この点の理解につき、G. A. P. に2月末に問い合わせたところ、5月14日時点で回答はありません。そしてこの68g/日の品種は、G. A. P. ③まで利用可能です。そこでB C P認証では、より遅い成長速度の品種を再設定したと考えられます。B C P認証品種は、最大で50・0g(0・11ポンド)程度に限定されているようです。こうし



図2 G.A.P+ベターチキンプロジェクト(BCP)マーク

て、B C P認証をプラスすることでスロウグロウス品種への切り替えを表現していると考えられます。

ただし、B C CにあつてB C Pに存在しない項目は、意識のない中でのと鳥(C A S)と、第三者機関による監査です。また、B C Cはスロウグロウス(品種変更による1日増体重制限)について言及していますが、概ね1日増体重60g程度を条件としていられると思われるため、1日増体重規制を品種を通じて行うことは、困難なことなかもしれません*5。

表4 自然食品強化小売店の鶏肉（ムネ肉、1ポンド=454g当たり）種類・企業ごとの価格（ドル）

スペース	有機	有機認証	NAE	AW 認証など	ブランド	小売E	小売F	小売G
					PB	3.49		
			○	○ (G.A.P. ②)	PB	4.99*	6.99	
フリーレンジ			○	○ (CH)	PB			6.99
フリーレンジ			○	○ (G.A.P. ③)、BCP、CH、スロウグロウス	NB			8.49
	有機	USDA	○	○ (G.A.P.)	PB		8.99	
フリーレンジ	有機	USDA	○	○ (G.A.P. ③)	NB		10.49	
フリーレンジ	有機	USDA	○	○ (CH)	PB	6.99*		8.99

※1 筆者調査
 ※2 USDA=米国農務省、CH=Certified Humane、NB=ナショナルブランド
 ※3 認証CHは卵などを許容しているため植物性飼料のみでない、G.A.P.は③から屋外アクセスが必須
 ※4 *AW認証なし

いずれにしても、2023年1月からBCP認証の付いたチキンが販売されるようになったことにより、BCPならびにBCPの取り組みが可視化され、消費者が理解できる形で商品化されたことを意味します。図2で示したマークの下に、②③⑤の数字でG.A.P.の取り組み水準（ランク）が示されますが、実際の店舗では三つの企業で見かけたにすぎないことから、スロウグロウス品種への切り替えは困難が伴いそうです。ただし、G.A.P.③のみであれば、到達はそれほど難しくないので、表2の通りすでに進められており、また表示はしていませんが、ホールフーズマーケットの対面販売での鶏肉は概ねG.A.P.③と、密度・屋外アクセスなどは実現されているからです。

表4は自然食品系小売の鶏肉に関する調査で、小売Fと小売GはBCP宣言をしています。

小売FではG.A.P.認証マークが、小売GではG.A.P.+BCP認証マークが付いた商品がありました。価格は有機で8.99ドルと10.49ドル

で、表3の小売B、小売Cの価格と差があまりないため、BCPの商品がどの程度コスト・価格上昇となるかはこれからの展開を注視する必要があります。

(4) 抗菌性物質不使用 (NAE、Antibiotics-Free // ABFともいう)

もう一つ注目すべきは、冒頭でも一般的な品揃えとして紹介した抗菌性物質不使用 (NAE) 鶏肉です。2016年末で数量シェアは全体の33%、2020年で50%以上を占めると見られ、この間の伸張が見て取れます。業界の構造としては2022年のブローラー処理羽数は上位10社で76.6%を占め、約95%の生産者が鶏肉企業と契約を結ぶ垂直的産業構造となっています。そして**図3**のように、NAE+VFはカテゴリ区分が明確です。

日本では、NAE鶏肉は特別飼育鶏として生産・販売されており、1980年

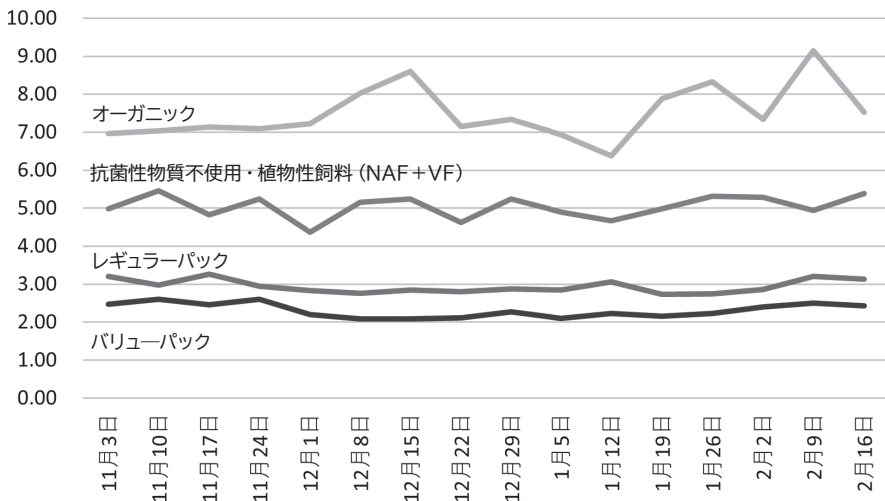


図3 米国の鶏肉（骨なし皮なしムネ肉）価格動向（2023年11月～2024年2月／1ポンド=454g）

代頃から生活協同組合の鶏肉で、NAE（主に成長促進目的で使用される飼料添加物の不使用）の取り組みが広く行われ、現在も多くの生協で扱われています。ただ、日本は米国ほどの市場規模でないため、鶏が病気に罹患した際の対応に不十分なケ

ースが散見されるとして、抗菌性物質不使用鶏生産に関して懐疑的スタンスを取る団体や薬剤耐性菌専門家もいます^{*7}。日本では、抗菌性物質不使用鶏肉のフードシステムが確立していない懸念があるためです。ただし、薬剤耐性菌対策が世界的な関心事である現在では重要な取り組みであり、その進捗状況は日本でももっと関心を持たれるべきと思われます。

NAEを実現するには、飼養管理、衛生管理も含め、密度、照明、空気の質など、AWへの配慮を強める必要があることから、結果としてAWの取り組み強化に繋がります。しかし、一般的な銘柄鶏と特別飼育鶏の間には価格差がないと考えられるため、カテゴリーとしての確立が必要ではないでしょうか。

日本の生産者（企業）はどう捉えたら良いか

鶏肉需要伸張の下、飼養環境の改善は世界的な関心事になっています。しかし、BCCないしBCPの動きは、密度・敷料・照明・エンリッチ

メント・品種・と鳥プロセス・監査などを必要としている点で、ハードルは採卵鶏と比べ高いと思われます。米国ではBCCなどを適正に判断する食品ラベルが2023年1月までなかったことが、その困難性を示しています。ただし、密度・敷料・照明・エンリッチメントなどは取り組みやすい部分であり、中でも密度は最も分かりやすい論点です。

農水省のブローラーの飼養管理に関する技術的な指針に、「必要な飼育空間は、飼養される鶏の品種、系統や体重、鶏舎の構造、換気の状態、飼養方式、1群当たりの飼養羽数等によって変動するため、適切な水準について一律に言及することは難しいが、重要なことは、管理者又は飼養者がよく鶏を観察し、飼養空間が適当かどうかを判断することである^{*10}」とあるように、「一律に言及することとは難しい」ので条件分けを行った上で、言及に向けた議論・研究を開始するタイミングだと思われます。

また、と鳥をめぐるプロセスにも改善の余地があることが指摘されており、行政も問題意識を共有してい

るため、食鳥業界への国民的理解を促進する点からも取り組みが求められます。

抗菌性物質不使用鶏については、広がりない背景を明らかにする作業から始めなければなりません。これは筆者も研究課題として引き続き考えていきたいと思えます。

最後に、スロウグロウスはいろいろな方面から議論が可能です。一つは、JIDORI®商品からです。

日本の地鶏を意識していると思われるですが、米国チキンのフリーレンジはどのようなレベルで実現しているのでしょうか。公的な基準がないことは前述した通りですが、鶏卵のよりにパッケージに飼養密度を記載するケースは、有機も含めて見当たりませんでした。今後、有機の面積基準に従っていく中で数値表示もされるかもしれません。NAEも含めて、地鶏の再評価を行いながらスロウグロウスに対してのスタンスを定めていくことが必要と考えます。

*1 竹内正博「アニマルウェルフェアに関する内外の動き 雄ひな淘汰禁止、ブローラー新基準案など」鶏肉卵情報、2024年新年特大号、68-71頁。小林大祐「米国鶏肉

産業の現状と消費者ニーズへの対応について」畜産の情報、2024年1月号

* 2 USDA National Retail Report, 2023.12.2-2024.2.9 までの11週間の推移。いずれも「骨なし皮なしムネ肉」1ポンド(453g)当たりの価格。米国の1万8000店以上のデータによる

* 3 米国における鶏肉需給の動向と消費の現状、畜産の情報、2019年1月号

* 4 英国 RSPCA、RSPCA Broiler Breed Welfare Assessment Protocol (2017.5)によれば、屋内は60g、フリーレンジは52gの上限を設定している(ただし体重2.2kg時、孵化)。ノルスク・キリング社では従来より15%遅い品種を採用し、死亡率が飼育中40%、輸送中76%それぞれ低下したと同社獣医の話として伝えている。なお成長速度はチャンキーの場合、第4週から平均日増体重が80gを超えてくる

* 5 BBFAWレポート関係者へのインタビューによると、英国でのBCCの進捗状況も十分ではなく宣言企業は期日までの実現は困難だというステートメントを発表する可能性もあり、ビジネスの成立との兼ね合いでBCCも進んでいくだろうと述べている(2024.3.12筆者インタビューメモ)。なお肉用鶏1日当たり増体重は、英国やEUのBCCでは上限60gと考えられるため、米国と英国では違いが見られる

* 6 中小家畜の飼料として動物由来タンパク質飼料は、豚・馬・鶏・魚由来が認められている

* 7 *5で紹介した関係者によれば、米国のNAEの商品比率の高さには不安を感じる部分もあるとしている。病気への対策はAW上必要であることから、抗菌性物質不使用がAWにそぐわない状況になっていな

いかどうか不明だからとしている(同筆者メモ)。ただし英国では、飼料添加物としての成長促進目的での抗菌性物質使用が2006年以降認められていないことから、前提が異なること、多くの英国小売業のAWレポートで抗菌性物質の管理項目を設けていることから、AW項目として必要な視点である

* 8 TACKLING DRUG-RESISTANT INFECTIONS GLOBALLY: FINAL REPORT AND RECOMMENDATIONS THE REVIEW ON ANTIMICROBIAL RESISTANCE CHAIRED BY JIM O'NEILL, 2016.5によれば、このまま対策をしないと2050年には世界で薬剤耐性菌によって亡くなる人口はガンで亡くなる数を上回るとの推計が示されている

* 9 拙稿、平飼い卵の普及と特別飼育鶏の不明瞭な位置付け、養鶏の友、2020年10月号21-27頁

* 10 農水省、ブロイラーの飼養管理に関する技術的な指針、2023.7、12頁

英国の AW鶏卵・鶏肉動向

1. 英国流通業におけるAWへの取り組み

筆者は3月に英国AW食品流通調査を行ったので、ここから関連情報を三つ指摘したいと思います。

まず、4月25日付けで、BBFAW最新レポート(2023年版)が

発表されました。これは世界150の食品/流通/レストラン企業のAWの取り組みを評価し投資に生かす目的で発行されていますが、全体50項目のスコアが80%以上のティア1(最上位層)は0企業、62~80%のティア2は3企業、44~61%のティア3は6企業、ティア4は18企業となっており、日本のイオン、セブン&アイ、マルハニチロ、明治ホールディングス、日本ハムはいずれも、11%未満のFと低くランクされています。50項目中、サプライチェーンに限定した「インパクトレーティング」の20項目の評価では、Cランク(44~61%)が最高で6企業、このうち、英国流通企業がM&S、ウエイトローズの2社含まれ、Dランク(27~43%)は5企業、そのうち英国企業は、英国コップ、セインズベリーズ、テスコ、生産企業のノーブルフーズが含まれるなど、英国のAWの取り組みは世界で最も進んでいる国の一つといえます。またEランク(11~26%)は13企業あり、前述の通り、日本の5企業はいずれも11%未満のFです。インパクトレー



森のたまご

株式会社 森鶏卵場

〒769-1611 香川県観音寺市大野原町大野原1834
TEL0875-54-3151 FAX0875-56-4006

東北支店(岩手) 和歌山支店(和歌山)
宮城工場(宮城) 四国支店(香川)
関東支店(福島) 福岡支店(福岡)
中部支店(三重) 南九州支店(宮崎)

表5 英国小売業のアニマルウェルフェアレポートなど

小売企業	レポート名	レポート 頁数	グローサリー マーケット シェア	BBFAW 総合ランク	殻付卵 ケージフリー	生鮮チキン (BCC 宣言など。 材料としてを除く)
tesco	Animal Health and Welfare report 2022/23 Reporting Year	35 頁	26.9%	ティア4	2025年までにケージフリー (達成率82%)	飼養密度30kg/m ² 以下が17%。ゆっくり育つ品種が4%
セインズベリーズ	Sainsbury's Animal Health & Welfare Report 2023	39 頁	14.6%	Tire4	2009年以降100%ケージフリー 2020年以降100%フリーレンジ	平均飼養密度33.79kg/m ² 。ゆっくり育つ品種で密度30kg/m ² が5.07%。2023年3月以降、全て飼養密度は30kg/m ² 以下
アズダ	Farming & Nature : Animal Welfare	HP	14.1%	—	2025年までにケージフリー (達成率84%)	自然光が差し込む広い畜舎で、自由に歩き回り、自然な行動ができ、ペールや止まり木、餌をついばむ道具を利用できる。最大飼養密度38kg/m ²
アルディ	Animal Welfare Policies and performance, 2023.7	23 頁	9.3%	Tire4	2025年末までにケージフリー (達成率82%)	全てレッドトラクター基準以上。飼養密度38kg/m ² 未満、平均飼養密度35.54kg/m ²
モリソンズ	Farm Animal Welfare Progress Report 2023.9	14 頁	9.1%	—	100%フリーレンジ	平均飼養密度34.20kg/m ² 。5.4%は有機かRSPCA認証かレッドトラクターの福祉強化認証
リドル	Farm Animal Health and Welfare Policy , 2022.1、HP:Animal Welfare	16 頁	7.1%	—	2025年までにケージフリー (達成率62%)	2025年までに自社ブランドのスペースを標準より20%増やし、最大飼養密度を30kg/m ² とする(2024.3発表)
コープ	Co-op Animal Welfare Standards & Performance 2024.3	60 頁	6.5%	Tire3	2008年から100%フリーレンジ	2024年3月より全て飼養密度30kg/m ² (Space to Thrive)以下。RSPCA認証された27.5kg/m ² 以下の放し飼いは2.4%
ウェイトローズ	Our animal welfare policy and livestock & farmed fish KPIs Autumn 2023	54 頁	4.7%	Tire2	2008年から100%フリーレンジ	BCCサイン。飼養密度は30kg/m ² 以下、放し飼いは27.5kg/m ² で15% (ゆっくり育つ品種 Hubbard JA57)
M&S	M&S Animal Welfare Performance Summary 2023 Our Approach to Animal Welfare 2023	28 頁 23 頁	(3.6%)	Tire2	1997年から100%フリーレンジ	BCCサイン。飼養密度は30kg/m ² 、全て遅く育つ品種 (Hubbard JA57,JA87, Redbro)。放し飼いや有機では27.5kg/m ² が5割弱、21kg/m ² が5割弱 (放し飼いや有機合わせて9%程度)。生鮮は全体の約31%

※1 各小売のレポートは2024.5.10,HPで確認、達成率などは2022年度末の英国データ

※2 マーケットシェアは英国統計による (2022.9。M&Sは民間リサーチ2022.2)

※3 BBFAWランクは2023 (2024.4) : 数字が小さいほうが評価が高い

※4 BCCは2026年までに実施

テイニングは畜種ごとに進捗度合いを数値でスコア付けするもので、例えば、採卵鶏ではケージフリー比率、ピークトリミングの比率、雄ひなの殺処分比率、ブロイラーでは飼養密度30kg/m²以下の比率、福祉結果の改善もしくは成長が遅い品種の比率、CAS処理などと鳥の改善比率が評価項目となっています。

英国流通のAWの取り組み動向を把握するには、各小売業が発行するAWレポートを参照すると良いでしょう。表5がそのリストです。

例えば、最大手小売業tescoのレポートは、AWを結果測定する(良い給餌、健康、取り扱い、鶏舎、適正な行動)ことを示し、スペース、身体的な処置、輸送、動物の取り扱い、と畜、エンリッチメントなどの項目ごとに、そのAW状況を数値で示しています。

またセインズベリーズも同様に、政策の詳細な説明、畜種ごとに年次別の到達度が数値で示されています。チキンでは、飼養密度、と鳥の人道性、鶏の健康状態(5項目)が過去5年にわたり示されています。さら

表6 セインズベリズーチキンの商品種類

商品種類	環境	エンリッチメント	品種	密度	マーク
by Sainsbury's	自然光の入る屋内で飼育	自然な行動を促すために、ベール、止まり木、プラットフォームを設置	標準品種	2023年3月より30kg/m ²	レッドトラクター Red Tractor (Standards)
by Sainsbury's RSPCA Assured	自然光の入る屋内で飼育	自然な行動を促すために、ベール、止まり木、プラットフォームを設置	ゆっくり育つ品種 (スロワーグロウイング)	30kg/m ² 以下	RSPCA Assured
Taste the Difference Woodland Free Range	室内で飼育され体温調節に必要な羽が十分に生え揃った時点で森林の放牧地にアクセスできる (少なくとも一生の50%)	探検や自然な行動を促すために、木々や生垣が植えられている屋外へのアクセスが可能で、ベール、止まり木、プラットフォームがある	ゆっくり育つ品種 (スロワーグロウイング)	30kg/m ² 以下	RSPCA Assured+ WOODLAND TRUST
So Organic Free Range	室内で飼育され体温調節に必要な羽が十分に生え揃った時点で森林の放牧地にアクセスできる (少なくとも一生の75%)	探検や自然な行動を促すために、木々や生垣が植えられている屋外へのアクセスが可能で、ベール、止まり木、プラットフォームがある	ゆっくり育つ品種 (スロワーグロウイング)	30kg/m ² 以下	オーガニック (ソイルアソシエーション)

出典 : Sainsbury's Animal Health & Welfare Report2023, 27頁



図4 ウェイトローズが多くの畜産商品に添付するマーク

に、商品ライン別の取り組みも説明があり、鶏肉商品4ラインについて、表6のように特徴が示されています。そして、抗菌性物質使用のレポートも別途発行されています。高級スーパーの一つ、ウェイトロ



図5 レッドトラクターマーク

ーズでは図4のように、「ファースト・フォー・アニマルウェルフェア」というマークを多くの商品に貼付し、自らのAWの取り組みに関して、各団体から受けた賞に基づいてアピールしています。そして「ウェイトローズは、より良い高福祉食肉において業界をリードするスーパーマーケットであり、そのため販売する植物

の量を増やしながら、私たちはより良い高福祉食肉も多く販売します…それはより多くの顧客が、少ない量で良いものを購入することです(筆者訳)としており、小売事業とAWの取り組みを融合させる視点を示しています。

小売業のレポートからは、BBCの全体ではないもの、密度や自然光、エンリッチメント、と鳥プロセスなどの点で取り組みが総合的に進んでいることがうかがえます。

2. チキンの表記「英国の仕組み…レッドトラクターマークなどと文字表現

英国は米国と異なり、国家レベルでのフードチェーン認証スキームであるレッドトラクターマークが存在します。これは食品事故などからの信頼回復を目的に2000年に始まっていますが、チキンの場合2021年に改訂され、それまでの1種類の認証から、図5のように標準認証・充実した福祉認証・放牧認証の3種類となりました。いずれも任意の認証マークですが、2022年にさらに改訂された基

準書によれば、標準認証でも欧州基準より10%広い38kg/m²の飼育スペースを基準としているほか、床面積の1%以上の窓の設置など自然光の要件が含まれています^{*12}。また充実した福祉認証は、BBC基準を反映していることも大きな特徴です。このレッドトラクター認証は農産物も含まれて存在し、英国で5万戸の農家が認証を受けているとされています^{*13}。しかし、英国農業経営数は20万弱^{*13}であることから、比較的多くの経営が認証を受けているといえます。

また、レッドトラクターマークを上回る福祉認証のRSPCA Assuredスキームがあります。これはRSPCA(王立動物虐待防止協会)が別組織として運営しているもので、1994年にスタートしたフリーダムフード認証を起源とします。このマークの鶏卵カバ率は約51%と高いのに対し、鶏肉ではわずか1・2%に留まっているため、チキンでのRSPCA認証は限定的です。

そうした中、ばらつきはあるもののさまざまなAW表記が、商品パッケージに記載されています。高級スーパーの一つ、M&Sは「SLOWER BREED」^{スロウブリード}、「HIGH WELFARE」^{ウエルフェア}といった表記をしており、表5に示すように生鮮肉は全てゆっくりに育つ品種です。

表記で注目したいのは、商品説明文章がパッケージに小さい字で書かれていることです。例えば、セインズベリーズでは図6のように、「OUR CHICKENS NOW HAVE MORE SPACE TO ROAM &」



図6 セインズベリーズのチキン商品表記

「REARED BY OUR TRUSTED FARMERS」

「HAVE A HAPPIER & HEALTHIER LIFE(私たちの鶏はより広々としたスペースで歩き回り、より幸せで健康的な生活を送っています)」と記載され、「REARED BY OUR TRUSTED FARMERS(信頼できる農業者によって飼育されている)」とも書かれています。また、コープでは「REARED WITH CARE AND MORE SPACE, IN NATURALLY LIT BARNS, FROM FARMS WE KNOW & TRUST(自然光が差し込む畜舎で、より広いスペースで大切に飼育されています。私たちが知っている信頼できる農場から)」と記載され、レッドトラクター標準認証マークが貼付されています。

さらにウエイトローズでは、「HIGHER WELFARE(より高い福祉)」と記載があり、「OUR BRITISH CHICKENS ARE FREE TO ROAM, PECK AND PERCH IN SPACIOUS, AIRY BARNS(私たちの鶏は広々とした風通しの良い鶏舎で自由に歩き回り、ついでに、止まり木に止まります)」と記載されています。ハードディスカウンター(安売り小売業)と呼ばれるアルデイでは、「REARED ON TRUSTED BRITISH FARMS TO HIGH WELFARE STANDARDS(信頼できる英国の農場で高い福祉基準に基づいて飼育されている)」と記載され、レッドトラクター標準認証マークが貼付されています。

22/23年で82%がケージフリーですが、大型店では床に設置した大きなケースに10個ないし15個入りで大量陳列しています。

次に、地球環境鶏卵商品です。5月号で米国におけるキップスターという取り組みを紹介しましたが、英国でも温室効果ガス排出削減に向けた放し飼い鶏卵が販売されています。

「Responsible Egg」(責任を果たせるレスポンシブルエッグ) (リドルのPB商品、2・49ポンド/6個)ないし「Respectful」(敬意をもって) (セインズベリーズ2・25ポンド/6個)です。前者はCO₂を57%削減(2021年対比)を謳っています。



写真 モリソンの卵売場に掲示された看板

またモリソンスでは、写真のように大きな看板に、「Better for our planet eggs independently verified carbon neutral」(よりよい地球環境鶏卵商品)と、カーボンニュートラルな放し飼い卵を1個35ペンス(約69円、1ポンド197円換算)で販売しています。こうした地球環境対策商品は増えていくと思われます。

そして、低価格フリーレンジ(放し飼い、FR)卵の存在です。例えば、最も安いモリソンスのFR卵は6個で0・89ポンド(約175円)で、テスコのケージ卵10個(440g)1・33ポンドと比較すると、1個当たり0・133ポンドに対して0・148ポンドと、その価格差は12%ほどしかありません。価格差をあまり気にしないで、放し飼いの卵が購入できる構造

ができつつあると考えられます。

なお、FR卵に関しては売場において、例えばアルデイでは、「FOLLOWING GOVERNMENT ADVICE, ALL FREE RANGE HENS ARE TEMPORARILY HOUSED IN BARN TO REDUCE THE RISK OF BIRD FLU. (政府の勧告に従い、全ての放し飼い鶏は鳥インフルエンザのリスクを減らすため、一時的に畜舎で飼育されています)」との表記がされており、鳥インフルエンザで一時的に舎飼いもあることを明記しています。

4. まとめ

ベーターキンコミットメント(BCC)は、英国でも宣言小売業は多数ではないものの、レッドトラクター標準認証基準で密度や自然光の規定が定められています。また、各小売業のレポートを見る限り、密度や自然光、と鳥処理をはじめ、脚の状態、皮膚の炎症、輸送時の死亡率などについてそれぞれレポートされていることから、鶏肉のAW状態について可視化(数値での確認など)されている点が評価できます。その上で、取り組みは項目ごとに目標を持

って総合的に進められていることから、英国でもスロウグロウス品種選択への取り組みは困難が伴うように見受けられるものの、それ以外でブローラーAWの取り組みは着実に進んでいるようです。また、鶏肉パッケージへの短い文章でのAWの特徴記載は、消費者の理解・納得を増進する上で大きく役立つと思われます。

鶏卵に関しては、放し飼い卵の拡大を確認できるものの、鳥インフルエンザの影響をどのように回避しながら正常行動表現の自由を損なわずにAWを進めるかについては課題とされます。

- * 11 waitrose,our approach to animal sourced foods (2023,秋)
- * 12 E U の飼養密度基準(理事会指令 2007/43/EC)は、原則33kg/m²だが、各種条件を満たせば42kg/m²まで認められている。また窓に関しては、2023年までに床面積3%相当の設置などのコンセンサスが得られているとしている。
- * 13 DEFRA, Agriculture in the United Kingdom 2022 (2023.7)
- * 14 RSPCA ASSURED Annual review 2022(2023.7)

